



TICADとODA

－ より良い開発援助に向けて －

遠藤衛

TICAD市民社会フォーラム




自己紹介：

- 遠藤衛 TICAD市民社会フォーラム 会員
神戸大学大学院国際協力研究科 博士課程
アフリカ経済開発
- 93-97 日本のNGO職員でタイ、カンボジア派遣
- 97-98 オランダISSで、開発学修士号
- 99-01 国連世界食糧計画(WFP)エチオピア事務所
学校給食プロジェクト担当(教育セクターP)
- 03-05 在タンザニア日本国大使館勤務
援助協調担当 専門調査員(GBS, 農業SP)



本日の話の目次:

1. アフリカはどういうところ？
なぜ援助が必要なのか？
2. TICAD
成果と課題
3. 日本の対アフリカ援助はどうしたら
良い？



1. アフリカはどのようなところ？ なぜ援助が必要なのか？



アフリカは多様な世界

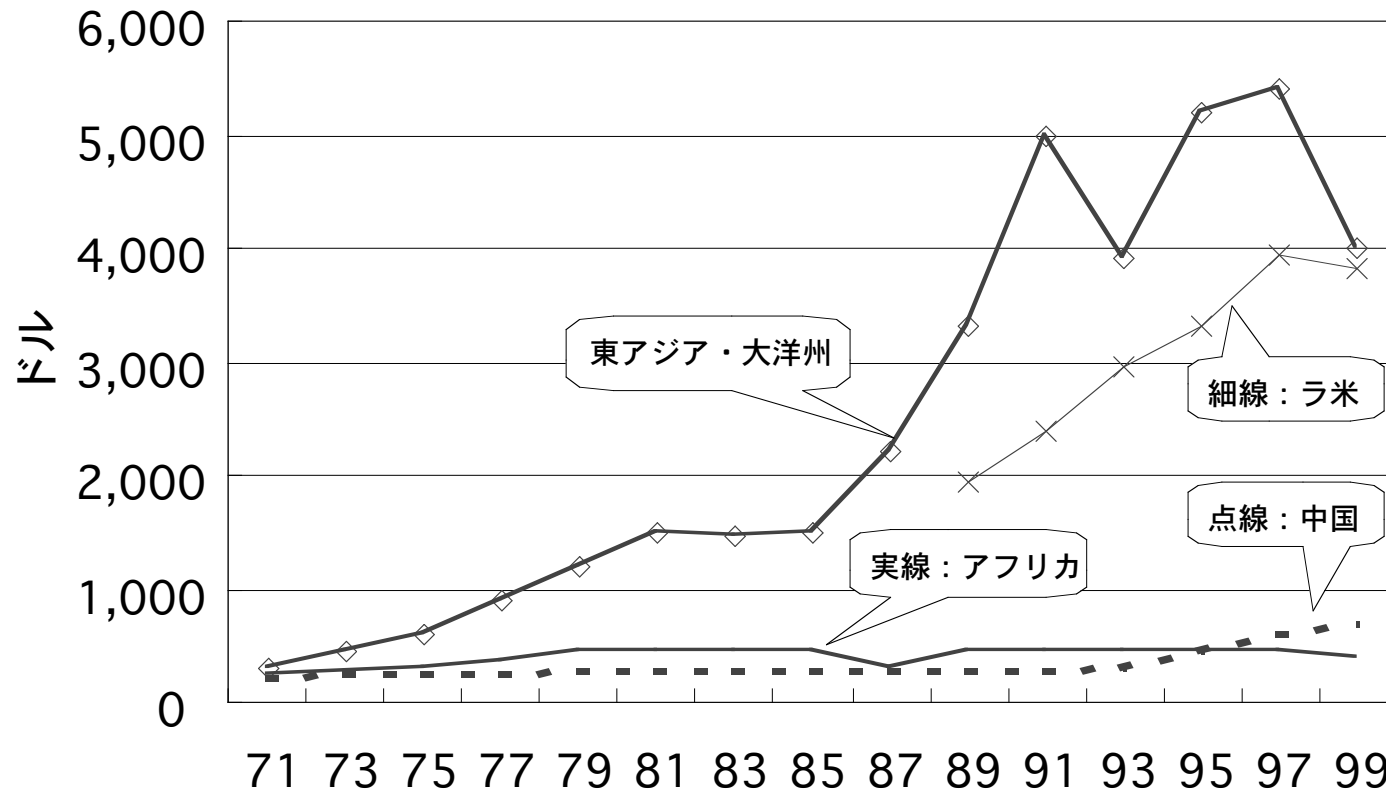
- サファリも、ジャングルも、砂漠も、寒いところも
- 天然資源は豊富（石油、鉱物、農産物）
- 未知の疾病もあるが、有用物質も
- 900以上の部族、800-1,800の言語
- 内戦等があるが、平和な国々も多数



アフリカの大きさと人口

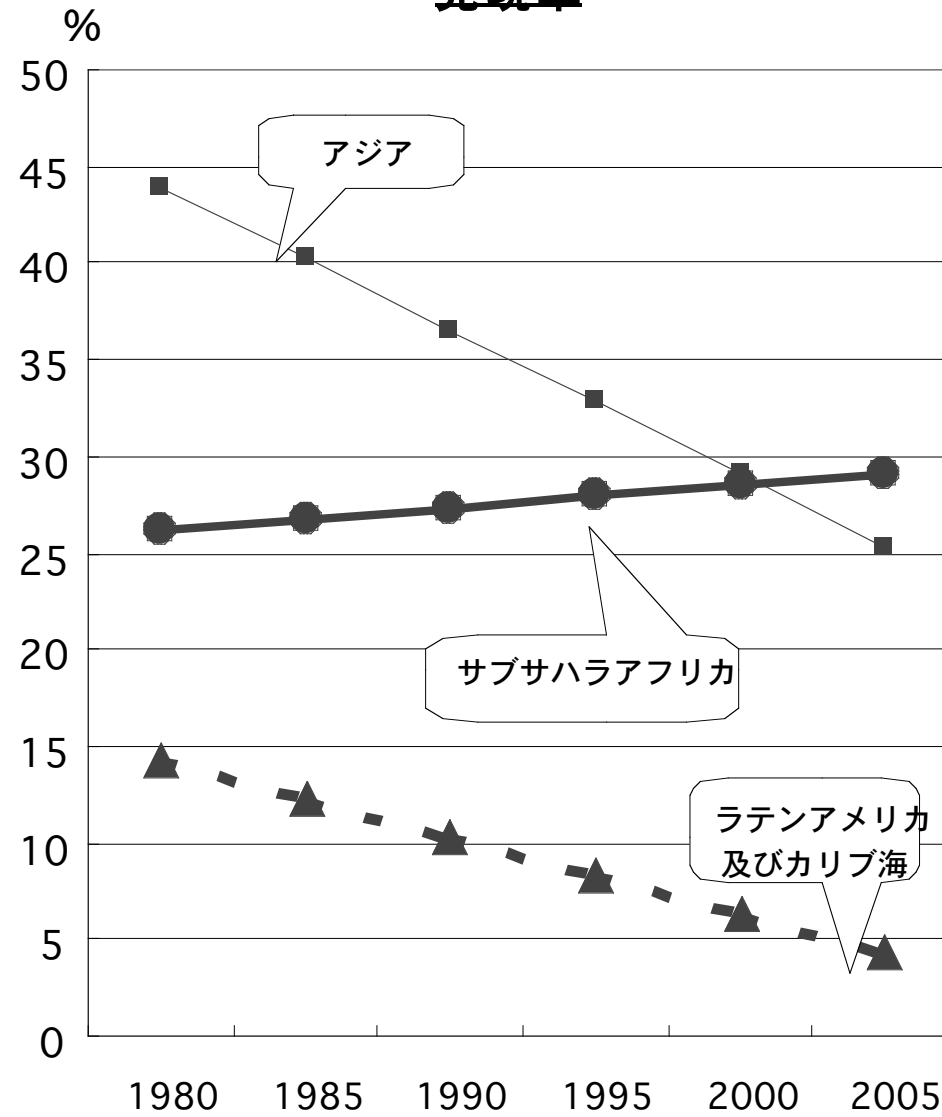
- 面積：3,026万平方キロ
（日本の80倍、世界の22.2%）
- 人口：9億2,500万人
（日本の7.24倍、世界の14.2%）
- 国数：53カ国
（国連加盟国の27.6%）
- 貧困者数：41%（約3億8千万人）
一日を1ドル以下で生活する人々

図1：アフリカ、アジア、ラテンアメリカの
一人当たりGNPの推移



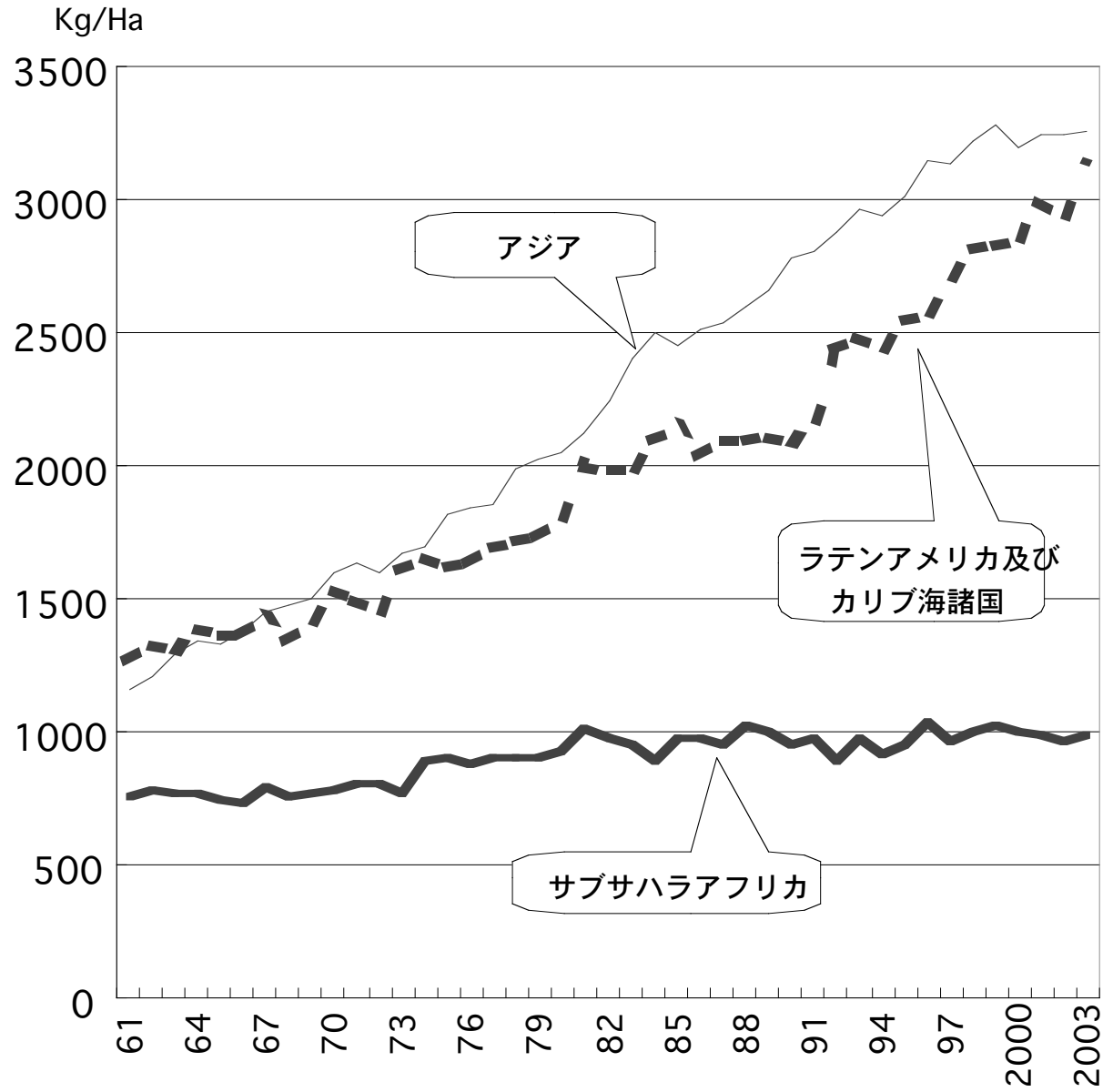
出典：平野克己『図説アフリカ経済』（2002年 日本評論社）p8（図1-2）を再現。
ラ米データは、98, 99年度が世銀"World Development Report"各年版、
それ以外はUNDP "Human Development Report"各年版より抽出。

図2：5歳未満の幼児の低体重（UW）
発現率



出典：UN/IFPRI, "4th Report on the World Nutrition Situation 2000",
Table 1.3, page 10をグラフ化。

図 3 : 開発途上国における穀物生産性推移

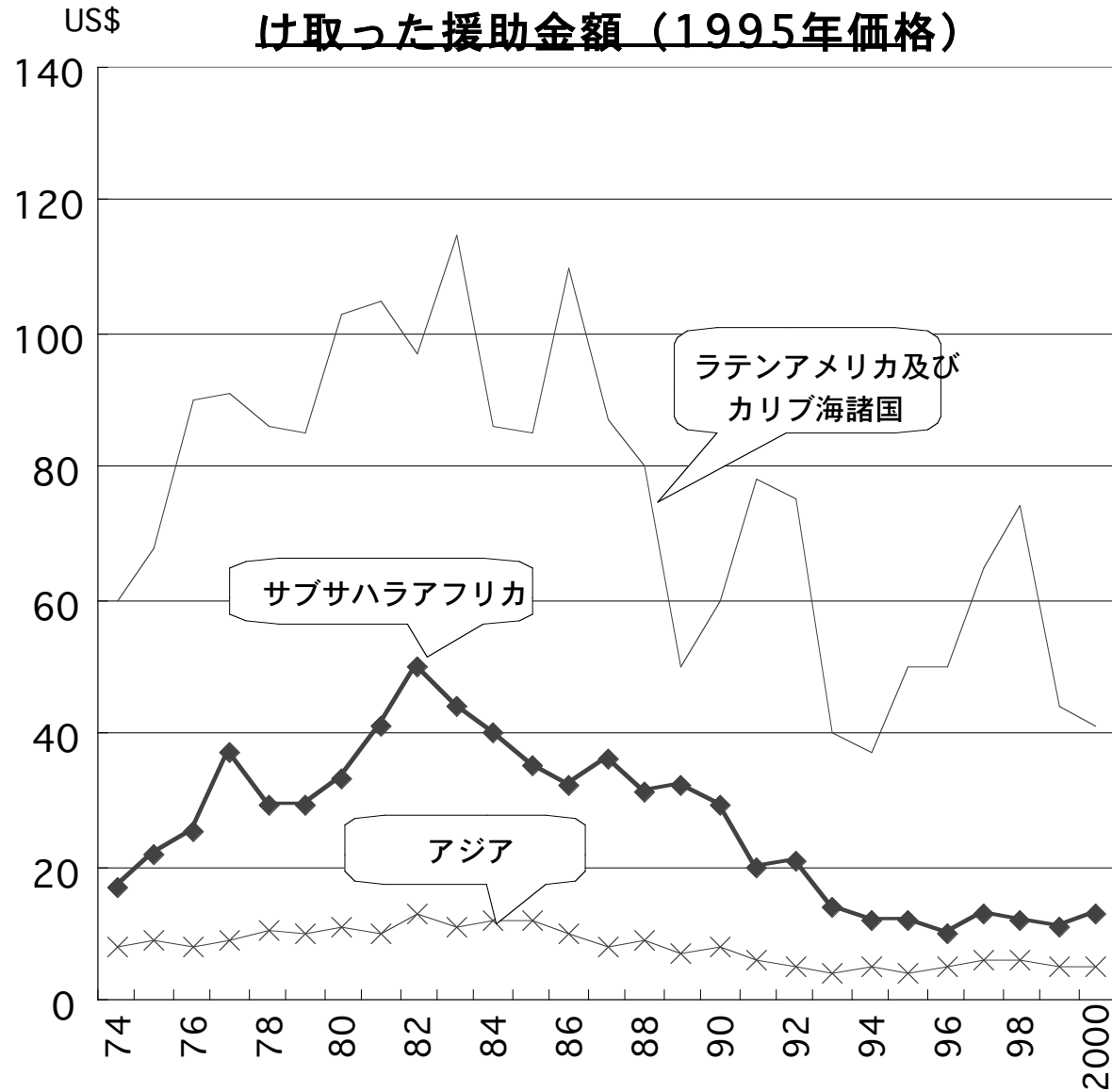


出典 : F A Oホームページ統計集 (FAOSTAT) より作成。

<<http://apps.fao.org/default.jsp>>

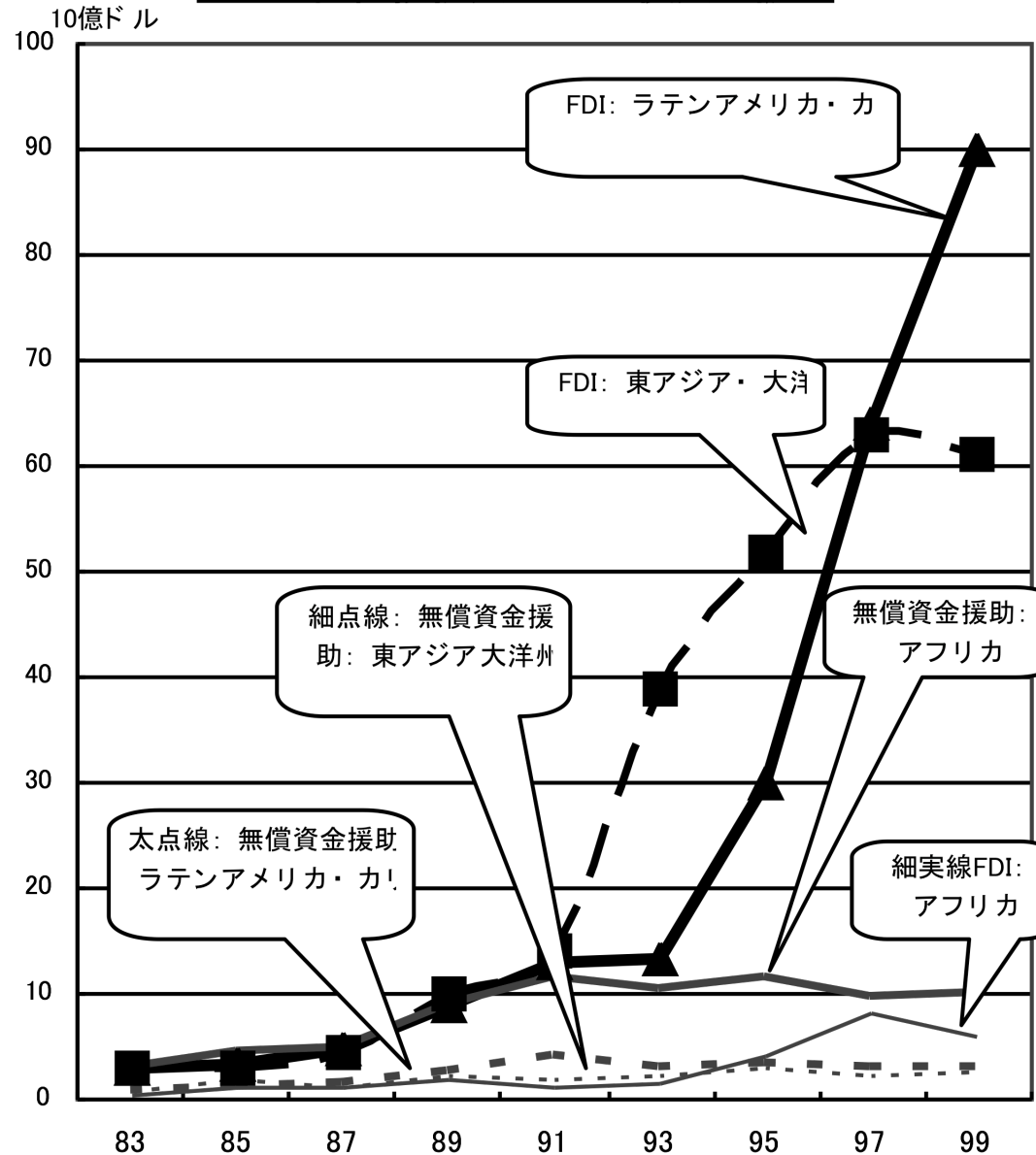


図4：開発途上国における農民一人当たりが受け取った援助金額（1995年価格）



出典：FAO, *The Status of Food and Agriculture 2003-2004* Rome, 2004
Recreation of "Part 2, 7. External Assistance to Agriculture, Figure 33"
<http://www.fao.org/documents/show_cdr.asp?url_file=/docrep/006/y5160e/y5160>

**図5: アフリカ、アジア、ラテンアメリカに対する
FDI(外国直接投資)及び無償資金援助**



出典: 出典: 平野克己『図説アフリカ経済』(2002年 日本評論社) 14) 及びp98(図4-19)を組み合わせて再現。



MDGsとは？

- MDGs (Millennium Development Goals)

 - ミレニアム開発目標

2015年までに、世界が達成すべき重要な目標を、2000年に国連で各国首脳が署名した。

18の目標：

例：2015年までに、一日1ドル未満で生活する人々の数を半減する。

<<http://www.undp.or.jp/arborescence/>>



アフリカの状況は？

- アフリカのサハラ砂漠以南の諸国は、MDGsを2015年までに達成するのは、困難だと言われている。HIV/AIDSの高い罹患率等も。
- 高い人口増加率＝貧困問題と直結
- 生活状況はなかなか改善しない＝貧富の格差拡大、一次産品価格の不安定、労働市場が硬直的等で工業化が困難
- いまだに国内的統一が確立していない国がある＝内乱や内戦の危険性がある



アフリカ発展のために 必要なことは？

- (1) ガバナンスの改善、紛争の解決
- (2) 人びとへ投資すること
- (3) 生産性と競争力の向上、経済の多様化
- (4) 援助依存と債務を減らし、パートナーシップを強化すること
- (5) 市場規模を拡大し、魅力的な投資対象地域を作り、地域経済統合をめざす

『アフリカは21世紀を自らのものにできるか？』



アフリカについて:まとめ

- 多様な人々と文化が存在するところ
- 貧困にあえぐ人々が多く、HIVやマラリア等の疾病も人々の生活を脅かしている
- 国が自立した発展を遂げられない
- 経済発展が困難、債務負担が重い
- 先進国からの援助を必要としているが、今までと同じやり方でなく新しい方法が必要
- 平和の維持と人々の基本的人権が重要



2. TICAD: 成果と課題



TICAD

- アフリカ開発（東京国際）会議
Tokyo International Conference on African Development: TICAD
- 日本政府主催、世界銀行、国連開発計画（UNDP）、アフリカのためのグローバル連合（GCA）との共催
- 1993年以来、アフリカ各国首脳を招いて、5年に1度開催。2008年は4回目。
- 今年は5月28-30日、横浜で開催。



これまでの主要な成果

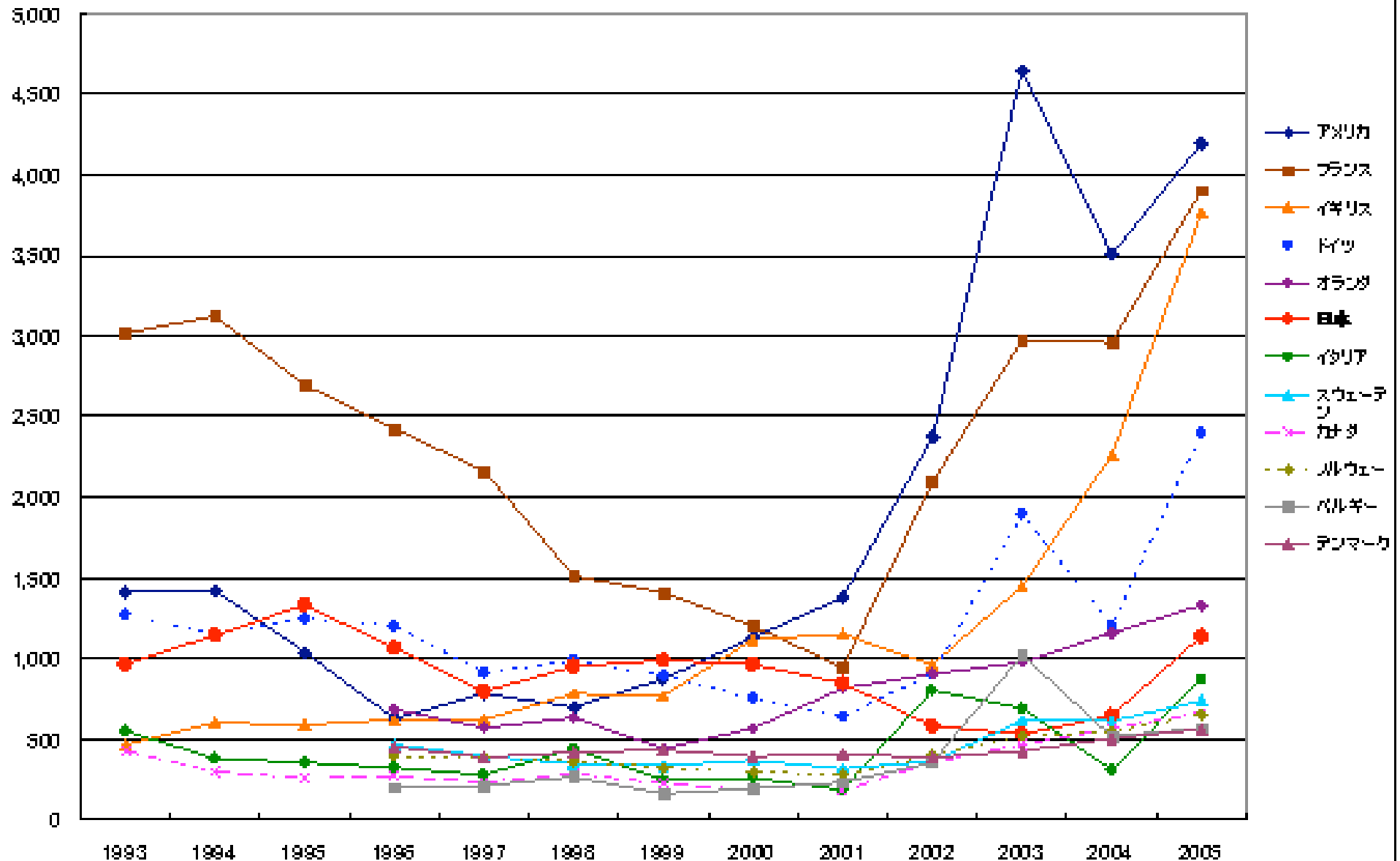
- 90年代の欧米諸国による援助疲れの中、アフリカ支援の重要性を強調。
- 貧困削減や貿易促進を主張してきた。
- 「アフリカ開発のための新パートナーシップ(NEPAD)」へと発展。
- 南々協力の重要性を主張。



問題点

- アフリカ重視や貧困削減という世界的テーマを形成したが、それを発展させられなかった。
- 援助の方法論の改善や債務救済・援助額増額等の議論で遅れを取った。
- 対アフリカ援助を外交ツールや貿易促進のツールとしたため、MDGsの実現に向けた努力に専念できず、TICAD自体も曖昧に。
- 市民社会の参加を軽視してきた。開発？外交？


主要ドナーの対サブ・サハラ・アフリカ支援実績推移(二国間ODA)





今年のTICAD IVの見どころ

- アフリカの最重要問題である貧困問題に、どこまで迫れるか（環境や緊急援助等の他の問題で貧困問題を隠れ気味にしない）。
- 日本政府がアフリカ援助額増加と、援助方法論の改革実現を、どこまで具体的に約束できるか。（cf.参議院決議、ガボン閣僚会議）
- 中国等に対して、お手本となれるか。
- 市民社会と真のパートナーになれるか。



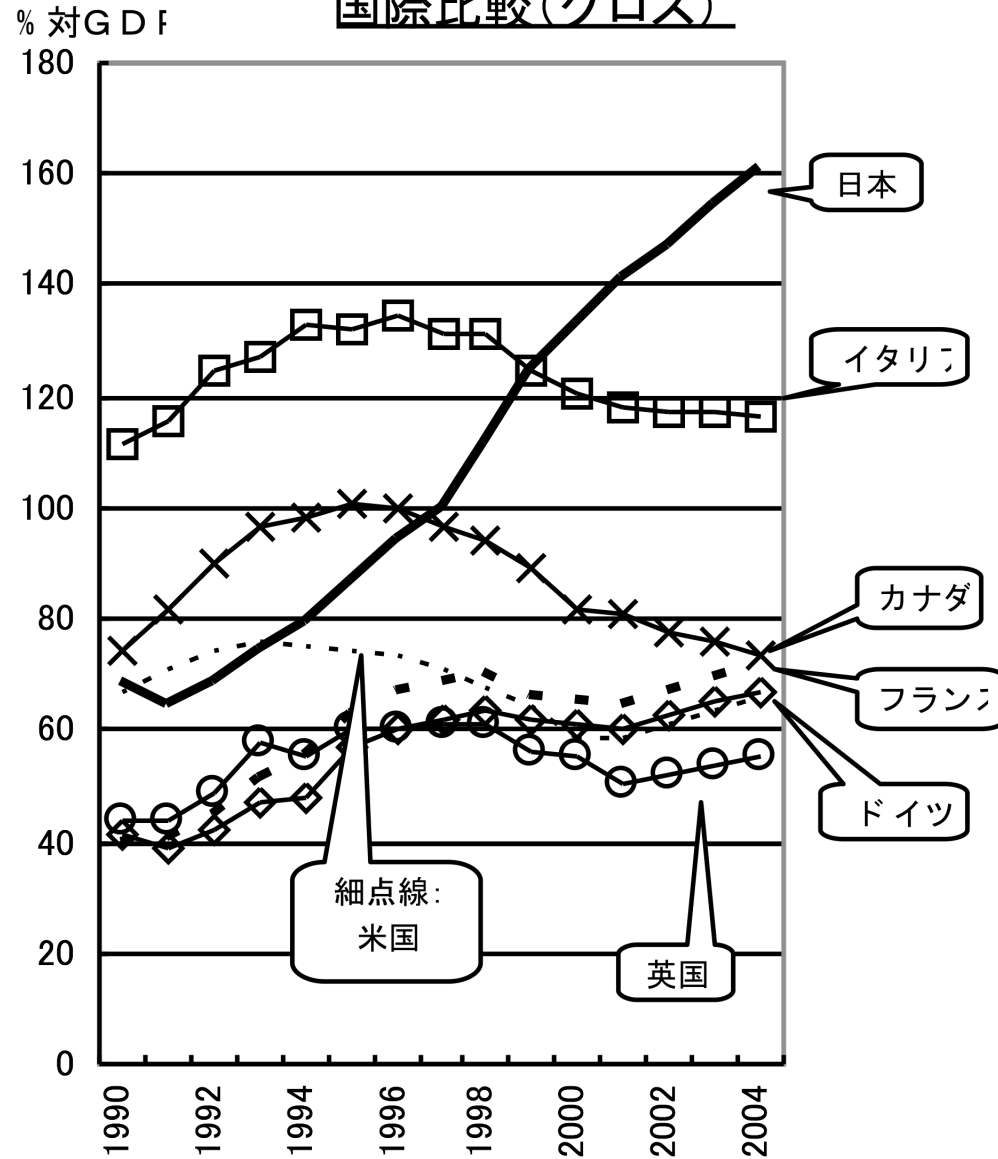
3. 日本の対アフリカ援助は どうしたら良い？



日本のODAの状況

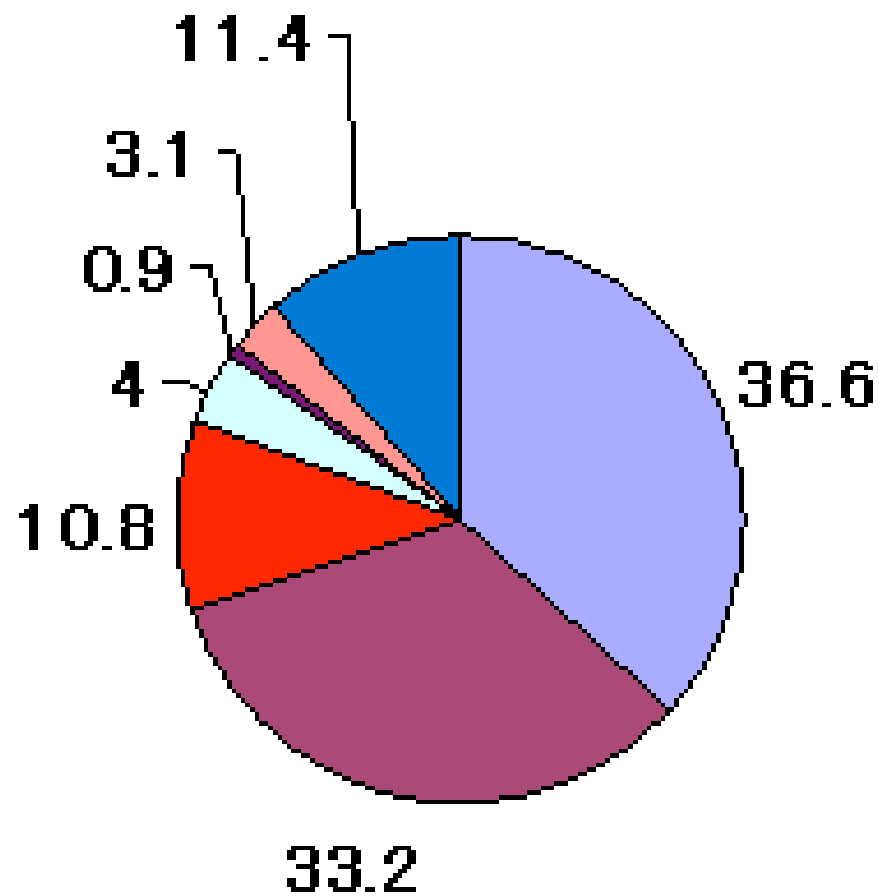
- 日本のODA総額は90年代中盤以降継続して減少、ピーク時の97年からは38%減。
- ODA予算(07年)は、GNIの0.2%、財政83兆円の0.8%、防衛予算の15%、生活保護予算の3分の1、伸び率は-4%。
- 対アフリカ援助予算は、05年に1,100億円、ODAの10.8%、06年に2,560億円34.2%(支出純額518億円6.9%、無償で純額707億円)。過去平均約10%、06年に無償で9.4%。イージス艦は1400億円

図17: 国及び地方の債務残高の
国際比較(グロス)



出典: 財務省主計局「我が国の財政事情について 2003年」
URLは<<http://www.mof.go.jp/seifuan16/yosan006.pdf>>.

二国間ODAの地域別配分(2005年)



■ アジア ■ 中東 ■ アフリカ ■ 中南米
■ 大洋州 ■ 欧州 ■ 分類不能



日本政府の対アフリカ援助方針

- 今後3年間でアフリカ向けODA倍増
- 今後5年間で全世界向けODA100億ドル(約1兆円)積み増し
- 「保健と開発」に関する新イニシアティブ(アフリカは主要な対象)
- 貿易を通じた途上国の持続的開発を支援するための「開発イニシアティブ」
- 経済成長を通じた貧困削減
- 平和の定着支援



日本(世界)はどうやってアフリカを支援すべき？

- 世界の議論は、GNIの0.7%は開発援助に使うべきと主張。また、開発援助と外交・国家戦略は切り分けるべき。日本は「ODAは外交ツール」。
- 貧困や病気で苦しむ人々への救済を、何か別のことに関連づける意味は？ 国策？ 国家戦略？
- 経済成長するためにODAによる経済インフラ投資は必須ですか？ 日本の地方部への過剰/不均衡インフラ投資からの反省は？
- 援助の方法論は改善が続いており、世界の知恵から日本が学ぶ姿勢は？
- 次の50年100年のLDC支援とは？



効果を上げられる援助とは？

- 援助は、良い政策環境のもとで有効に作用する。
- 援助の価値は、公共サービスが効果的に行きわたるように、制度と政策を強化すること。
- 活気ある市民社会は公共サービスを改善する。
- 重点は投資からインセンティブへ。物的資本そのものより、成長を促進する制度と政策を重視へ。
- 改革が重要、プロジェクトは体制全体の変化に貢献しない限り影響力は無い、市民社会の関与が重要。
- 援助方法論のたゆまぬ改善（アンタイド、プログラム援助、援助の民主化・透明化等）が必要。



市民や学生はどういう関わりを？

- アフリカを知る、訪ねる、交流する。
- 過去について深め、現在・将来を熟考。
- 世界の議論を学び、積極的に参加。
- ODAについて理解を深める。
- 何のためのODA/開発援助か？
- ODAをウォッチし、政治的にアクティブに。
- 人として・地球市民として。



あなたは、
アフリカに向けた日本政府の政策をど
うすべきだと思いますか？

Thank you